

茨城大学



internship Off-campus Program



インターンシップ



海外研修



サービスマーケティング



発展学修

2019年秋、茨城大学の「iOP」がスタート！

茨大生が地域へ、世界へ 一斉にはばたきます。

茨大生が一斉に地域へ、世界へ。
課題の現場で学びを深める

旗印は「**iOP**」
アイ・オー・ピー

茨城大学



ACTIVITY



インターン
シップ



海外研修

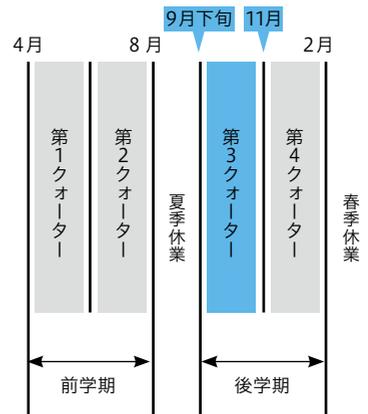


サービslラーニング
(ボランティアなど)



発展学修

2017年にスタートした茨城大学の新しいカリキュラムでは、学部3年次の第3クォーター(9月下旬～11月)を、iOP (internship Off-campus Program) クォーターと呼び、原則的に必修科目は開講しません。夏季休業とあわせて、長期的でアクティブな学修活動に学生たちが取り組みます。



茨城大学のディプロマ・ポリシー

茨城大学では、すべての学部の学生が卒業するまでに身につけるべき 5 つの知識及び能力をディプロマ・ポリシー (学位授与の基準) として定めています。iOPは、これらの力を身につける上で欠かせない活動です。

[5つの茨城大学型基盤学力]



世界の俯瞰的理解



専門分野の学力



課題解決能力・コミュニケーション力



社会人としての姿勢



地域活性化志向

茨城大学コミットメント



5つの茨城大学型基盤学力を確実に身につけられるように、学生、教職員、地域の人たちが関わりあう教育の仕組みを、「茨城大学コミットメント」と呼んでいます。



インターンシップ

企業や自治体、省庁、学校、NPO などで行う「就業体験」で、短期的なものや中長期的なものなどさまざまなタイプがあります。学生が実際の仕事の現場で社会人とコミュニケーションをすることで、社会人としての姿勢を身につける貴重な機会となります。

どんな意義があるの？

学生にとっては、企業や業界について深く理解できる、社会人として必要な基礎がわかる、自己を理解し成長させられる、大学で学ぶべきことがより見えてくる、といった意義があり、しっかりとした目的意識をもって臨むことが求められます。

また、企業等の方々にとっては、学生のキャリア教育支援とおとした社会貢献、若手社員の指導経験、企業活動への学生の視点の活用といったメリットが期待されます。



どういう形式があるの？

インターンシップの就業体験にはさまざまな形があります。

- 仕事体験型** ひとつの部門でしっかり就業体験するもの
- 企業体験型** いくつかの部門を半日～1日単位で体験するもの
- 課題検討型** 業務の実際に触れ、グループディスカッション等で検討するもの
- ジョブシャドウ型** ひとりの担当社員に寄り添って体験するもの
- 学実践型** 大学で学んだ分野の技術を実際の現場で習得するもの

●各企業等の事情やニーズに合わせて、受け入れ可能な形を検討の上、実施します。

▶ **インターンシップ**によって身につく主な基盤学力：



海外研修

学生が主体的に海外へ飛び出し、語学力などの知識・技能に留まらず多様な文化を理解できるようなプログラムにより、グローバル化が進む社会において、世界で活躍できる・世界を俯瞰的に理解しながら地域で活躍できる人材の育成を目指します。

どんなプログラムがあるの？

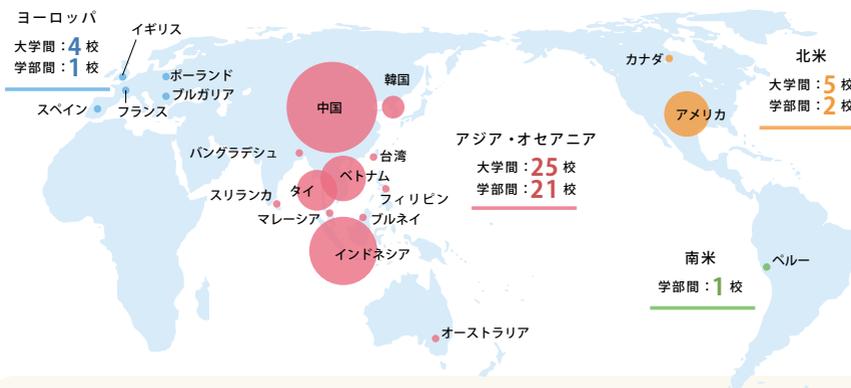
協定校への留学 茨城大学と交流協定を締結している大学で数ヶ月以上学ぶ

短期海外研修 海外の大学や語学施設等で2～4週間程度学ぶ

学生自身が企画・計画した海外大学等での学修や、休学をあわせた長期の留学等であっても、iOPとして認められる場合があります。



茨城大学は海外のさまざまな大学・機関と交流協定を締結しています



▶ **海外研修**によって身につく主な基盤学力：





サービスラーニング

授業で身につけた知識・技能を、地域の課題解決につながるボランティア活動などを通じて実践・活用します。



教室で学んだことを、地域社会における課題解決に活かすボランティア活動が主なプログラムです。教室での学びが実際の生活に活かせることを体感することで更なる学修意欲につながるとともに、活動を通じて現時点の社会の仕組みではカバーしきれない生活に必要なものについて考えることができ、より深い学びを得ることができます。

活動事例 ▶ 教育支援ボランティア、いきいき茨城ゆめ大会 2019 ボランティア

▶ サービスラーニングによって身につく主な基盤学力：



発展学修

専門分野の知識・技能を、授業外のまとまった時間を十分に活用した実験や研究、フィールド調査によって深く探求・展開したり、コンテストや研究大会に挑戦したりします。

授業期間には行うことが難しい活動であっても、iOP 期間を活用して集中的に取り組むことができます。学外をフィールドとした課題解決ゼミや、専門知識・技能を活かしたコンテストやサイエンスインカレへの参加など、多様なプログラムがあります。

活動事例 ▶ 学生地域参画プロジェクト、各種団体主催のコンテストへの出場



▶ 発展学修によって身につく主な基盤学力：



iOP に向けて —学生の学修計画と企業等の受け入れの流れ—



学生

自分のキャリアを見つめ、1年次のうちから iOP で取り組む活動計画を立てていきます。

[1・2年次]

キャリアイメージをつかみ、
iOP の活動内容を計画



企業等連携機関

大学の担当者と相談しながら、iOP にふさわしいインターンシップ等のプログラムをつくっていきます。

プログラム相談
(仕事体験型・企業体験型・課題検討型など)

<事前準備・事前研修>

自分で計画立案

基盤教育科目
ライフデザイン

プログラムから選択

[3年次]

iOP クォーター



評価・振り返り

学生からのフィードバック

インターンシップ受入に関する Q&A

Q1 どのような形式でインターンシップを受け入れればよいですか？

A 各企業のご事情にあわせて期間や内容等をご検討ください。就業体験を中心とするもの、学生に課題を与えて検討するもの、いくつかの部門を広く見学・体験するもの、先輩社員について補佐業務をするものなど、複数の形式があります。

Q2 受け入れ期間はどれくらいでしょうか？

A インターンシップでは5日間の実習を基準に、学生のiOP認定をしています。受け入れのご事情に合わせて短期の3日間程度（認定外）から数週間（長期）の学外学修も可能です。就業体験をともなわない、1 day インターンシップ等は対象外としています。

Q3 何年生が参加するのでしょうか？

A iOP クォーターは3年次にあたるため、3年生を中心に実施しています。一方で、通常のインターンシップは、1～2年生や大学院生も対象としていますので、あわせて受け入れをご検討いただけます。

Q4 学生の受け入れに費用はかかるのでしょうか？

A 学外学修の一環ですので、受け入れに関して大学で費用を申し受けることはありませんが、学生に対しては日当や交通費などインターンシップに関する諸手当の支給をご検討いただけますと大変助かります。

Q5 学生に事故やケガがあった場合や受入企業に損害が生じた場合は？

A 学生は学外学修の保険に加入して参加します。企業の秘密漏洩など守秘義務を守った上で参加します（別途、受け入れに関する文書を交わす場合もあります）。海外研修は別途保険に加入します。

●お問い合わせ先

iOP 全般に関すること

茨城大学学務部学務課
〒310-8512 茨城県水戸市文京 2-1-1
TEL 029-228-8816
e-mail: iba-iop@ml.ibaraki.ac.jp

インターンシップに関すること

茨城大学キャリアセンター
TEL 029-228-8829
e-mail: career@ml.ibaraki.ac.jp

